

人が手を入れた森と生き物

動物応用科学科3年神宮理沙

私が今一番興味があるのは、人の手の入れ方によって森林の生き物の多様性が大きく変わる、ということです。

大学に入る前、私は森林破壊というただ木が伐られて森がなくなるということをイメージしていました。私が麻布大学に入ったのも、森がなくなって生き物の住む場所がなくなるということはとても悲しく、それをどうにかしたいという思いからでした。しかし、日本の森林問題はもっと複雑でした。放置されることで荒れていく里山や人工林を、私は大学に入って初めて知りました。この事実を知ってから、森の管理ということに興味を持つようになりました。

卒論に関しては、1年目はアファンで4つのタイプの森(広葉樹林(ササ有り)、広葉樹林(ササ無し)草原(ススキ群落)、人工林)で自動撮影カメラやネズミの捕獲を行うことで比較し、もしとても興味があれば来年、人工林に注目して手入れのされた森とそうではない森で多様性の比較ができるかもしれないとの話を高槻先生からいただきました。

森が放置されている問題は、地域や経済、国や地方自治体の政策の問題、歴史的な背景な

ど、いろいろな要素が絡まり合っていてとても複雑で、本を読むと毎回知らなかったことがたくさん出てきます。実際に森を管理している側の人たちや一般の人たちに、良い森を維持していくことに共感してもらえるような理由を自分の意見として持てるようになるためにも、ただ森や生き物のことだけでなく、問題の背景に何かがあるのかもっと勉強しなければいけないと思相模原でも「森林破壊という負の遺産を後世まで残すな」をスローガンに、定年退職した方たちが山に入ってがんばっています。私たちの世代もがんばらなくてはと思います。

皆に知られないところで森の生態系がバランスを崩し、いなくなっていく生き物や逆に増えすぎる生き物があること。人里にやってきては畑やゴミを荒らし、憎まれながら殺されていく生き物があること。このようなことは、とても嫌で悲しいことです。私は森林の管理の仕方という面から、このような生き物を少しでも減らせるように努力していきたいです。人が手を入れることで戻る多様性があることを示すことで、良い森林の管理がされて日本の森に生き物が帰ってくることに少しでも力になれるようにと思っています。